

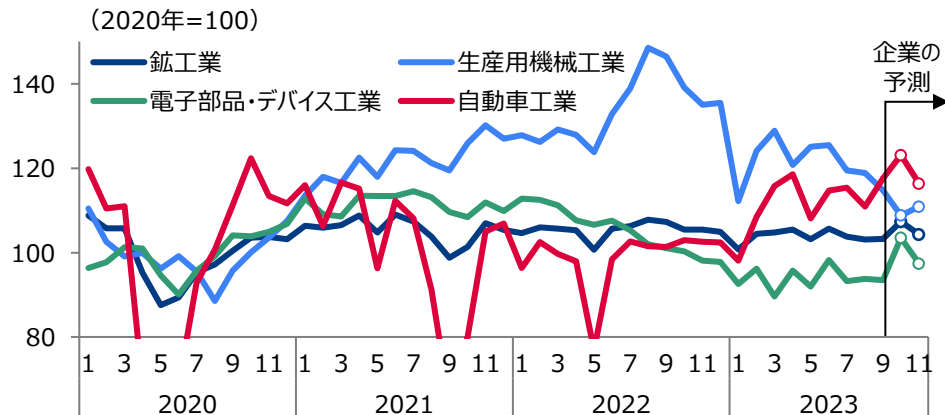
日本

鉱工業指数（2023年9月）

7-9月期は2四半期ぶりの減産、半導体生産回復の兆しは強まる

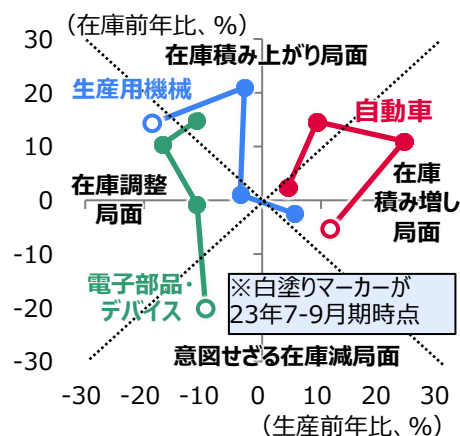
政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

1 鉱工業生産指数（業種別）



注：企業の予測について、鉱工業は製造工業、自動車工業は輸送機械工業の生産予測指数を接続。
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」より三菱総合研究所作成

2 在庫循環図（22年4Q～23年3Q）



出所：経済産業省「鉱工業指数」より三菱総合研究所作成

3 日米欧の自動車販売台数



注：直近は日本23年10月、米欧23年9月。季節調整値（日本については当社試算）。ユーロ圏は乗用車に限る。
出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、米商務省、ECBより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 9月の鉱工業生産指数（季調値）は、前月比+0.2%と、小幅ながら3カ月ぶりに上昇した（図表1）。
- 業種別にみると、自動車工業（前月比+6.0%）を筆頭に15業種中9業種で上昇した。一方、生産用機械工業（同▲3.4%）は3カ月連続で低下した。
- もっとも、四半期でみると7-9月期は前期比▲1.3%と2四半期ぶりに低下した。在庫循環図によると、自動車工業は生産正常化と受注残への対応を背景に増産が続いた（図表2）。一方、生産用機械工業や電子部品・デバイス工業は在庫調整圧力が強く、生産が抑制されたとみられる。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、一進一退の動きが続いている。
- 先行きについて、底堅い推移を見込む。生産予測調査では10月前月比+3.9%、11月同▲2.9%と振れが大きい。予測修正率のマイナス幅は縮小傾向にあり、生産の下振れリスクは和らいでいる。
- 底堅い生産を見込む背景として、①堅調な自動車需要、②半導体サイクルの好転、が挙げられる。
- ①について、日米欧の自動車販売台数は増加傾向が続いている（図表3）。米国や欧州では金利上昇による需要の下押しが見込まれるものの、大幅な減少には至らないとみている。コロナ危機以降の供給制約による下振れが大きく、先送りされた需要もあることから、復元余地は依然大きい。
- ②について、SIA（米国半導体工業会）によると、世界半導体出荷額（名目値、3カ月後方移動平均）は、9月前年比▲4.5%と、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。半導体関連大手企業の立地する台湾・韓国では在庫調整が進んでいる。日本の電子部品・デバイス工業も急速に在庫調整が進んでおり（図表2）、徐々に生産は持ち直す見通しである。